



岡山県原水協通信

2017年 2月 1日 No392
原水爆禁止岡山県協議会
700-0981 岡山市北区西島町4-25
TEL086-244-4526(F)805-6172
kenmin@po5.oninet.ne.jp

3・1ビキニ学習会ひらく

— 731部隊の戦犯免責と日本の戦後—を学ぶ

県原水協は1月31日、県立図書館で「2017年3・1ビキニ学習会」を開きました。

1954年3月1日のビキニ事件から63年、1000隻にのぼる漁船と数万人の被害者が日米政府によって闇に葬られてきたことが明らかになってきました。

「ビキニ事件隠ぺいの謎を追う」—731部隊の戦犯免責と日本の戦後—という表題の学習会には30人が参加。講師にビキニ国際訴訟支援する会共同代表、平和資料館・草の家 岡村啓佐氏をおよびしました。

岡村さんは「高知の被爆者」の撮影と聞き取りから始まった悪魔の系譜について史実に基づき話されました。



戦犯の牛耳る日本の戦後政治

岡村さんはビキニ被爆で1000隻の漁船と数万人の被害者がなぜ闇に葬られたのか—その背景が731部隊の戦犯免責と引き換えにアメリカと取引を行い200万ドルの損害補償で幕引きを行ったこと、さらに広島・長崎への原爆投下による人体への影響を秘密裏に調査するためにABCをつくりここでも731部隊の幹部がかかわったこと、日本人の核アレルギーを払拭するためにA級戦犯正力松太郎を戦犯免責と引き換えにCIAのスパイとして100万ドルの資金を与え、日本TVをつくり、読売新聞とともに親米・反共、原子力の平和利用のキャンペーンを担っていく過程を歴史の謎とさながら話されました。731—広島・長崎—ビキニ—福島が1本の糸でつながっていることを解明されました。

学習会に参加した青年たちは「アウシュビッツ、731部隊の人体実験は戦争の恐ろしさを感じる」「時系列で話されそのつながりがよく分かった」「包括的に歴史を学ぶことで真実がよくわかった」「日本の戦後政治は戦争犯罪人が牛耳ってきた、そして今もその流れにあることがわかった」と感想を話していました。(写真・左うえ講演する岡村氏 上・学習会の模様)



若い人への働きかけをもっと

大元・鹿田9条の会が「ヒバクシャ署名」行動

大元・鹿田9条の会は1月13日(土)、午後1時から岡山駅西口さんすて広場で6人が参加して「ヒバクシャ国際署名」に取り組みました。寒い中、1時間の行動で33筆の署名が寄せられました。「若い人たちにいかに関心を持ってもらうかがこれからの課題です」と大元・鹿田9条の会世話人の木村周二さんは話していました。

